

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和 7 年度第 4 回 相模原市立小中学校等の適正規模・適正配置あり方検討委員会		
事務局 (担当課)	学務課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 2 (直通)		
開催日時	令和 8 年 3 月 3 日 (火) 1 8 時 0 0 分 ~ 1 9 時 3 0 分		
開催場所	相模原市役所 本館 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委 員	1 1 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人	
	事務局	1 0 人 (教育局長、教育環境部長、教育総務課長、学務課長、 学校施設課長、外 5 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由			
議 題	<p style="margin: 0;">1 開会</p> <p style="margin: 0;">2 議題</p> <p style="margin: 0;">(1) 前回会議録の承認について</p> <p style="margin: 0;">(2) 前回審議会の振り返りについて</p> <p style="margin: 0;">(3) (まとめ) 適正規模・適正配置の考え方について</p> <p style="margin: 0;">(4) その他</p> <p style="margin: 0;">3 閉会</p>		

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

### 1 開会

川崎会長より開会のあいさつを行ったあと、定足数を確認の上、次第に従い会長が議事を進行した。

### 2 議題

#### (1) 前回会議録の承認について

前回会議録について事務局から説明を行った。

意見等はなく、前回会議録について委員の承認を得た。

#### (2) 前回審議会の振り返りについて

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑応答及び意見交換が行われた。

(川崎会長) 特に共通認識の部分については確認をいただきたい。子どもたちにとってのより良い環境での学びを実現するというのが、おそらく先にあって、新しい時代の学び、教育の質やマネジメントの向上、あるいは通学の安全や負担軽減などのようなことを実現するための適正規模・適正配置ということだと思うが、皆様から意見をいただきたい。

(割柏委員) 物価高騰で材料費が1.5倍に上がっていることや、入札不調が公共工事では多くなっているというのがニュースにもなっているが、相模原市でも、現状で入札不調あるいは応札さえない状況はあるのか。

(事務局) 令和7年度の長寿命化改修や大規模改造の修繕について、2件の入札不調があった。

(割柏委員) 国全体で見ても40年以上の建物が59パーセントあると言われていて、技術者も不足しているし、もちろん物価高騰もあるという状況で、相模原市は施設の整理を今から取り組んでおかないとこの先きつくなってくると思う。施設の整理を先延ばしにしていくと、最終的に手を出せない状況になることが見込まれると思うので、ここは正念場で、規模の基準も含めてしっかり整理をしておかないとさらに厳しくなると思う。前回も意見交換をしたが、専門家の方がたくさんいる中で、小学校は18学級、中学校は15学級という意見が多く出ていた。規模に幅を持たせたことで配置の方に影響して取組が進まないとか、前回の平成28年に提言書を出した時よりも進んだ考え方を持たなければ、その提言書は何だったのかなという

気にもなる。そのため、規模については前回の提言書を踏襲するくらいにし、配置でもう少し踏み込んだ考え方を持っていないと、諮問されている内容が逆に戻ってしまう気がしてならない。また、行政から出される資料は、私は満足だと思っている。あまり資料を要求しないのは、資料がたくさんあると多岐にわたり過ぎて難しくなるからであり、なるべく委員の皆さんが意見を出しやすい中で、落としどころを整理して、進めてもらえればありがたいと思っている。

(川崎会長) 入札不調は相模原市に限らず全国各地で起こっている。例えば、さいたま市ではかなり多く、学校改修も入札不調になっているということがニュースで流れている。そこで、さいたま市は少し踏み込み、学校施設は優先順位が高いということで、他の施設は後回しにしている。また、材料費は1.5倍では収まっておらず、ほぼ2倍と言ってもよいかもしれない。そのため、割柏委員が仰っていただいたように、先延ばしにして良いことはないので、順次改修や改築を進めていくというのが戦略としては望ましいのではないかと思う。

(酒井委員) 前回、12学級にして幅を持たせた方が良いと言ったが、色々資料をいただいた中で、やはり基本となる子どもたちのことを考えると、切磋琢磨ができる環境も作っていったらあげないといけなかなと思った。コストの面でも、学習環境においては設備的に良いものを子どもたちに提供してあげることもすごく大切だと思うので、なるべく小学校で18学級、中学校で15学級というところで変えることなく進めていく方が良いと感じた。

(倉田委員) 津久井地域と旧市域は分けて考えることは前提として、今度、校長会でアンケートを取って、クラス規模について問いたいなというのは校長会長に話をしており、実際に勤めている管理職を含めて、どのように考えているのかというのを自分の資料として持っていたいなというのはある。

(川崎会長) 校長会では、まだ適正規模という感じではないのか。

(倉田委員) 結局、「適正」と「望ましい」ということの論点で、その話をするとなかなかざわざわとする。言葉を一つ一つ取るわけではないが、やはりその部分が皆さんスッキリしたいところがある。また、以前も話をさせていただいたが、子どものことをメインに考えた時には、現状でいくと1クラス25人から30人が良いところかなと思う。それなら30人学級にすれば良いのかというと、今度は2クラスにした場合に15人と16人になってしまうため、そこはやはり望ましくない。国も言っているが、今の様々な家庭環境や多面性、価値観の中で子どもたちを見ていくのであれば、1クラスが25人から30人で、クラス数は3クラスくらいがあると、教員配置も主任がいて、中堅がいて、初任がいて、学年の中で動かす事ができる。現在、中野小学校では2年生が去年3クラスだったが今年は2クラスで、1クラス33、34人になっているがなかなか厳しい。そこをどうしていくのだろうというのも現実的に出てくるため、施設の問題もそうだが、子どもを大切にして教育の質

を高めるといったときに、色々な観点を加味しながら話を進めていくのかなと思う。

(井上委員) 相武台中学校でも、今日まさにその話があった。副校長から今度の新入生が82人の予定が78人になったと聞いた。中学校も来年度からは35人学級のため、26人の3学級になる。普段、先生たちは40人は多いと言っているが、今日は一転して26人になったらどのような授業をするのかというのが話題になった。そこで、本来は3クラスを作るところを、うちは40人学級でやろうかなと、それで1人教員が浮くという話をすると、それに対して賛成が出たりと、ころころ意見が変わる。楽をしたいと言う割には、しっかりやりたいという気持ちが職員にはあるのだなと思った。中学校の15学級は基本だと考えているが、15学級があっても1クラス数十人程度ではなく、トータル人数という視点でも考えなければいけないとも思った。あとは、津久井地域の学校に行ったら1クラス26人学級どころではないという話をして、その時はどうするという話を聞いていると、バスの話が出た。しかし、隣の学校に行くのも山を越えるため通学時間を考えるとバスでも大変だけど、どうすると聞いてみたら、最終的にはどうしようもないとなってしまうのだが、資料にもあるとおりにバスを有効に使っていただく方向が良いと思う。青根小中学校と青野原小中学校が一緒になって青和学園になった際にバスを出しているが、そのような形を積極的にやっていただければ良い。また、津久井地域では中学校の修学旅行を合同で行っているが、40人乗りのバスで10人しか乗らないよりも30人で乗ってバス代を割った方が良い。バスも北相から藤野、内郷まで回って小田原駅に行くのを2つのバスで行くなどすると、お金も随分浮くので、バスを有効に使う方法は考えればあるのではないかと思う。

(川崎会長) 適正配置の考え方については、資料に整理されている内容でまとめさせていただくのと、適正規模については、先程皆さんで共通認識を持っていただいた新しい時代の学びに対応していくということでは、小学校が18学級から24学級、中学校が15学級から21学級を、一つの目安として考えていくということで、まとめさせていただきたいと思うが、よろしいか。

(全委員) 異議なし。

### (3) (まとめ) 適正規模・適正配置の考え方について

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑応答及び意見交換が行われた。

(川崎会長) 6ページ目にある基本となる考え方の部分は、概ねこの内容で了承いただけたかと思うが、言葉の使い方を少し考えた方が良く思っている。この審議会の中でも最初は、市立小中学校等の現状から学校を減らすのではないかという警戒

感が見え隠れするような状態であったと思うので、そうではなくてポジティブな方向性をきちんと表現した方が良い。2つ目の「教育の質を落とさない」というのは、このままだと落ちてしまうように見えてしまうため、先生方がプレッシャーになると困るが、「落とさない」という後ろ向きな表現ではなく、「高める」という書き方で、相模原市として攻めのニュアンスを出したほうが良いと思うので、表現の仕方を工夫していただきたいと思う。

(倉田委員) 今の子どもたちに何が求められているかだと思う。その時代時代で、求められているものが変わってきているし、DXも含めた中でだいぶ変化はある。それでも、お互いにコミュニケーションを取って、意見を交換するということは、時代が変わっても根幹となるところであるため、今求められているものにみんなで向かいましょうというのが良いのかなと思う。

(川崎会長) その点が、新しい時代の学びへの対応というすごくふわっとした表現にはなっているが、これが皆さんの総意に近い表現ではないかと思っている。その新しい学びを実現していくための学校の規模や配置、最終的には学校施設になってくるのだと思うが、ここの表現はどうするか。

(齋藤委員) 基本となる考え方の下にある二重枠囲いの四角にも、安全安心で質の高い教育環境と書かれているので、私はあえて変えることはないのではないかなと思う。これで十分に子どもたちを前面に出した提案であったと思う。

(川崎会長) それでは、2つめにある「質を落とさない」を「質を高める」にさせていただく程度の修正として、とにかく前向き、攻めるというところを中心に進めたいと思う。

(川崎会長) 適正規模については何か意見はあるか。先程、学校規模の範囲は小学校は18から24学級、学年3から4学級、中学校は15から21学級、学年5から7学級とした。以前からの繰り返しになるが、この範囲を下回ったから、上回ったからダメだということではなく、これを目安に優先順位を考えていくという意味合いのものになる。これを下回っている津久井地域には別の対応というのも既に議論させていただいている。

(木下委員) 学級数の推移のグラフについては、中学校の35人学級を反映した数字になっているのか。

(事務局) 反映していない。今後、最新の状態に資料を修正させていただく。

(佐藤(慶)委員) 子どもたちが減っていくという現状のみを見て、適切なものは何かという話をしているが、おそらく今後、5年10年の間で劇的に変わることはないと思いつつ、今議論している考え方は子どもが増えていった場合も耐えられるものなのか。今は減っているから統合しなければいけないが、増えたら分割するというのは通じる話なのか。

(川崎会長) 適正規模では上限も設けているため、これを超えた場合には新設、ある

いは学区の調整なりで対応になるのではないかと思う。

(川崎会長) それでは論点1の学校規模の範囲については、先程の決定からそのままとさせていただきます。合わせて論点2の適正規模未満の学校への対応については、過小規模校と同様に適正規模の実現に向けた対応を行うということや、論点3・4の地域の実態を考慮した適正規模、単級が解消されない状況への対応については、主に津久井地域のことになるが、適正規模の基準とは別に実情に合わせた方策で対応するという事によろしいか。

(全委員) 異議なし。

(川崎会長) それでは続いて適正配置の考え方についてだが、こちらは先程の資料2と全く同じ内容になるため、全体を通して、先程の適正規模との整合性も含めて何か意見があったらお願いしたい。

(齋藤委員) 小中学校区の整合性に取り組んでもらえるというのは大変ありがたいと思う。この部分は行政に苦勞をかけてしまうと思うが、子どもたちのためにといいところでは本当にありがたいと感じる。

(川崎会長) それでは、本日いただいた意見を基に、最終的には事務局の方で「これまでの議論のまとめ」を完成させていただければと思う。

#### (4) その他

(井上委員) 資料4での学校新設というのは、新設校ではないという認識でよいか。例えば相武台中学校の校舎が老朽化しているので同じ敷地に新しい校舎を建てるということなのか、それともどこかの敷地に新設校を建て何校かが集まって来るといったことなのか、どのようなイメージなのか。

(事務局) 新たに土地を買うということではなく、同じ敷地に建物だけ立て直すイメージである。

(井上委員) 今後の物価高も踏まえて、なるべく早く実現しようという考えはあるのか。

(事務局) 今は地域と対話をしながら検討を進めているが、次回以降の委員会では、その進め方についても議論していただきたいと思っている。

(齋藤委員) 今回の資料では、市が子どもたちのためにといいのが本当に伝わってきている。資料7の6ページで、私は以前、「小学校18から24学級、15から21学級を相模原市としての適正として捉えても良いのではないかと発言をしたが、将来を見据えた望ましい学校規模ということがセットで示されることで、子どもたちのためにといいのが伝わってくるため、表現として大変ありがたかったなと思った。

(日下部委員) 資料4でスクールバスの台数を4台と置いている理由は何かあるのか。

(事務局) どのとは言えないがモデルとなっているエリアがある。その場合を想定すると4台はないと難しいというところである。

(日下部委員) バスの台数を増やすと乗っている時間が減る。今幼稚園で園バスの運用をしているのでよくわかるが、台数が少ないと無駄に走る時間が長くなり、バスに乗っている時間が増えてしまう。極端な話では1人1台バスを配車すれば通園時間を短くすることができる。そのため、津久井地域でバスを走らせるとなった場合には、台数を増やすことで通学時間を短くすることができると思う。また、今回のように具体的な数字が出てくると、維持するよりも新しく作ってバスを走らせた方が安いという考え方を委員が共通して持つことができるため、すごく良い資料だと思う。ぜひ、津久井地域での再編成の場合にはバスの台数を増やすことも積極的に考えていただければと思う。

(佐藤(慶)委員) 本日はグランドデザインの話だけで、個々の対策の話はまた別の機会ということで良かったか。

(事務局) 本日までの内容に基づき、次回から個別具体的な話となる進め方等を話し合っていたいただきたいと考えている。

(佐藤(慶)委員) 資料を見ても、統合したらバス停まで30分の人たちが歩いて授業参観に来るはずはないので校庭はいったいどうなるんだろうとか、バスが1台2千万円と言われても5年で買い替えるよなとか、バスの運転手も足りないしどうするんだろうとか考えている。

(川崎会長) 今回の資料はあくまでも試算であり、耐用年数など細かい話をすれば色々あると思う。具体的に実現するためにはどうするという皆さんのアイディアは次回以降に披露いただき、事務局とのやり取りの中で考えさせていただければと思う。

(久保委員) 資料5を見させていただくと、ほぼ全ての学校が避難所になっている。今後、再編成を進めていくと使わなくなる施設も出てくるわけだが、避難所としては運営していかなければならないというテーマもあり、そのための予算が必要であったり、備蓄の関係などもあり、活用方法も今後検討していくことになるのかなと思った。

(川崎会長) これで概ね全体像についてはまとまったと思うので、今後はこの考え方に基づいて、もう少し具体的な対応や対策の議論を進めさせていただきたいと思う。

#### 4 閉会

相模原市立小中学校等の適正規模・適正委員会 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	川崎 一泰	中央大学 総合政策学部	会 長	出席
2	齋藤 嘉一	帝京大学 教育学部 初等教育学科		出席
3	割柏 秀規	相模原市自治会連合会		出席
4	木下 泰雄	相模原市公民館連絡協議会		出席
5	日下部 全彦	相模原市幼稚園・認定こども園協会		出席
6	高橋 昌剛	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		欠席
7	久保 武史	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	副会長	出席
8	佐藤 香	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
9	酒井 美穂	公募委員		出席
10	佐藤 慶一	公募委員		出席
11	倉田 秀文	相模原市立小学校校長会		出席
12	井上 武仁	相模原市立中学校校長会		出席